



妻田満仲五代記

全部
冊

又 4
4913
1



又4
4913
1

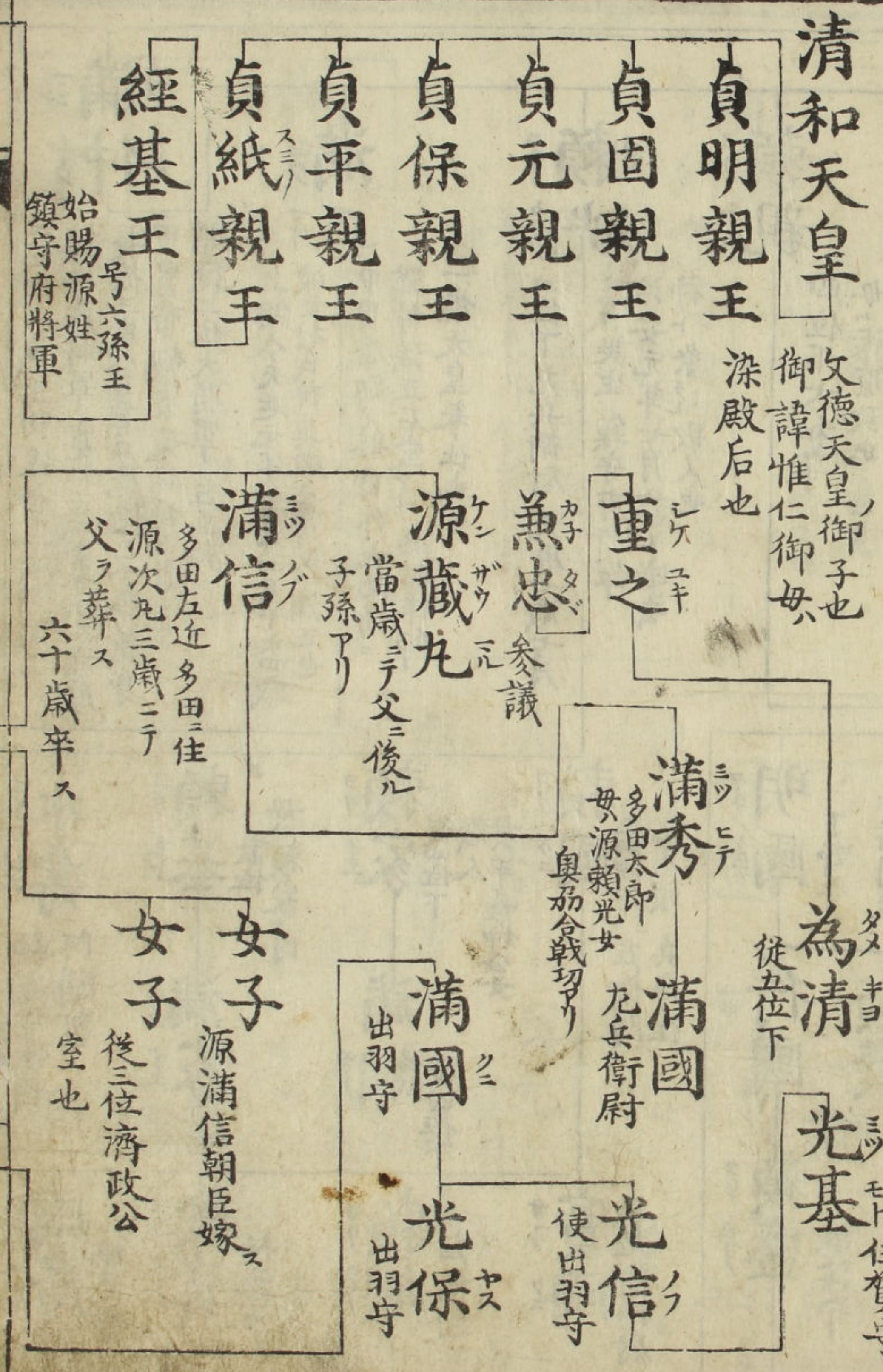
清和源氏系圖



津山
宋屋
林田町



清和源氏系圖



滿仲

正四位下 九馬助 延喜三歲御誕生
鎮守府將軍 寬和二歲出家法名滿慶
長德三歲八月廿日薨逝 不動化身
甲冑帶 劍 乘龍馬 神ト祭ル
贈從二位大將軍 左馬頭

滿正

上總今天延元年八月廿日卒 六歲
波豆村氏神與殿八幡ト云ハ滿正也
甲冑帶 劍ノ身自作也此所ニ
滿仲滿正石堂アリ 滿昭律師
一條天皇奉仕也

賴光

四位下 左兵衛尉 天曆七歲七月
藍目誕生 鎮守府將軍
治安元年七月廿日薨去
神ト祭ル 歌人也

賴親

四位下 大和守
母ハ藤原致忠息女
一條天皇仕也

永壽

賴光寺住持
阿闍梨

賴基

滿家

賴家

滿綱

賴國

正四位下 左衛門
九馬頭 兵庫住

實國

九衛門尉

國房

伊豆守

賴資

從五位下

賴綱

左衛門

明國

下野守
幡列住

行國

賴盛

攝津守

賴資

八郎

滿賢

佛ヲ能作ル
幾女九源珍法眼
延曆寺住 滿願寺住
多田院住 右之外所々住

賴信

從四位下 鎮守府將軍
九月五日御誕生 行童子ト云
康平三年九月朔日逝去
右之外賴平賴範賴明賴貞
孝道ト云アリ 皆滿仲子トス
神ト祭ル

賴義

鎮守府將軍 從四位下
伊与守 陸奥守 河内守
伊豆守 出家ス 伊与入道
神ト祭ル

賴清

肥後守

仲政

賴政

仲經

國直

賴行

正綱

賴房

賴俊

賴風

賴基

有光

光祐

賴治

親弘

義親

義綱

賀茂次郎 流罪

義國

正四位下 鎮守府將軍 源太九出羽守
八幡太郎 左衛門尉 歌人 六十八歲
逝去

義家

陸奥守 神トマツラル

義親 對馬守

義忠 河内守

義朝 正二位
左馬頭太政大臣

義光 新羅三郎 五十二歳卒
兵衛尉 後五位下

義業 進主判官 相摸守
義清 武田冠者 又号逸見

為義 六条判官
義時 右兵衛尉
義隆 次郎

義平 忠源太六条川原
三十九歳

義重 大炊助
新田御祖

行經 多田藏人 父下共流罪
綱重

賴朝 正三位右將軍
賴家 後位

義康 足利判官

滿重 家氏 多田上津住

滿政 後四位下
能勢神山下所神ト祭ル

忠重 宗定

滿快 後五位上
滿李 後四位
滿實 後五位下
滿賴 後位下
滿則

多田五代記卷第一目錄

維高 維仁 諱位事

滿仲 誕生事

賜源姓事

源經 基授位事

滿仲 自惟時傳軍旅事

純友 征伐事

滿仲 射鴈事

滿仲 討捕鬼神事

滿仲 賜城地事



滿仲住吉參籠并明神示現事

多田初并住吉神鎬中大蛇不思議事

西宮元大臣高明公流罪事

高明殿住宅焼拂事

滿仲任將軍事

滿仲内昇殿事



多田五代記卷第一

維高維仁諍位事

多田兵部轉

夫称日東之四姓者源平藤橘也冠其四姓者源氏

也以所因出生為氏殊ニ考和漢之兩朝甲九流者

儒家者流也次之者武家者流也于茲源氏正統一

流名家多由滿仲ト云武家者流アリ其直流沮濫

干日域且泝其源流汲其支流者天下ニ蔓延トシ

テ漫レリサレハ源滿仲ハ清和帝御孫鎮守府將

軍經基王嫡男也生相摸國鎌倉王子ヲ出テ不遠

其先清和天皇ノ太子貞純親王經基王滿仲滿政

滿季滿重滿快滿正賴光賴國賴親滿賢義女
法師賴信賴平賴範賴清賴季義政義家義綱義光
 義親義忠義國為義義時義隆賴隆義朝義賢義廣
 賴朝賴家實朝多田滿仲舍弟左馬助源滿政同滿
 實同滿季此三人滿仲子息上総从源滿正同尤兵
 衛尉源賴光同賴親同滿賢同賴信此五人賴國賴
 光長男賴國次男賴家三男賴基四男出家永壽也
 然ルニ此清和天皇ト申タテツルハ文徳天皇
 ノ御子也第一ヲ維高親王第二ノ皇子ヲ維仁親
 王トテ御兄弟二人御座ケリ互イニ天子ノ御位

シ事ニ實祚ヲ継セ給ハント天業ヲ互ニ挑メセ
 給ヘリ天皇モ何レノ御子トモ難棄御事共ニテ
 慮何トモ分チカタク思召煩ハセ給ヘトモ御
 嫡子ナレバ素ヨリ維高親王ニ御讓位メシマサ
 ント被思召ケル第一ノ王子維高親王ト申ハ御
 母ハ從四位下左兵衛佐名虎カ女從四位上紀靜
 子ト申ス第二ノ王子ヲ維仁親王ト申ハ御母ハ
 太政大臣良房忠仁公ノ御女藤原明子後ニハ添
 殿后ト申是也一宮ノ御事ハ外祖紀名虎取立奉
 ラントテ帝運ノ使然所ニテ第一ノ王子ニ出生

シソナハリ玉ヘリサレバ御位ハ此太子ニコソ
ト頻ニ内奏申ケリニ宮ノ御事ヲハ忠仁公ノ任
トシ太子ニ備ヘテ天業ヲ繼セ給ハント思案ヲ
廻ラシケリ一宮ハ落胤腹名虎カ女ノ王子也次
ノ弟ハ是執柄家ノ御女后ニ立タマヘル忠仁公
ノ息女ノ腹ノ王子ニメ賢モ亦同シケレバ御位
ヲ望マセ給フ莫モヤ有ベキカト強テ被内奏ケ
リ將忠仁公ノ御孫ニ宮維仁親王ハ其性賢ニマ
シマセハ是ヲ太子ニ立タマフヘシト内奏セラ
レテ已ニ及双論此事誠ニ難儀ニ及ヒ公卿僉儀

アリケル然ラハ何ニテモ就勝負御位ヲ可被進
定メトテ文徳天安三年二月初ニハ男山ハ
幡宮ニ臨時ノ祭リヲ行テ十番ノ競馬アリ四番
ハ一宮ニ付六番ハ二宮ニ付此上ハ維仁親王御
位ニ即給フベカリケルヲ天皇ナヲ御心ニ甘ヒ
不給思召ケレハ後ニハ大内ニシテ相撲ノ節會
ヲ被取行テ重テ勝負ヲ有觀覽可有御讓位ト奏
評有ケレバ維高ノ御方ニハ即外祖尤兵衛佐名
虎參ケリ恩愛ノ道コソ哀ナレ今年三十四太逞
ク勢高七尺計ノ大男六十人ガ力アリ維仁ノ御

方ニハ能雄少將トテ細小ノ男行年二十一其勇
カモ世上ニ聞ユレ氏名虎ニハ可敵對モノニ非
ズ去トモ果報冥加ハ二宮ノ可奉任御運トテ不
敵ニ申請テゾ參ケル旁兼テ有御祈師一宮ノ御
方ニハ東寺ノ柿本ノ真濟僧正ナリ德行高顯テ
修驗譽廣ク天皇御依ノ僧ナリケレハ名虎是
ヲ奉語付ケリ二宮ノ御方ニハ延曆寺ノ惠亮和
尚也行業年ヲ重テ驗シアリ修徳日ニ新也忠仁
公ト深ク師檀ノ契ヲ結給ヒケルニ依テ被奉付
ケリ惠亮ハ西塔寶幢院ニ壇ヲ構テ大威徳ノ法

ヲ修セラレケリ真濟ハ東寺ニ壇ヲ飾テ降三世
ノ法ヲ行給ヒケリ既ニ其日時ニ成ケレハ名虎
ト能雄ト出合タリ殆金剛力士ノ如シ堂上階下
目ヲ澄シテ是ヲ見ル門外門内足ヲ翹テ頸ヲ延
テ是ヲ望源深メハ不流盡根全ノハ枝不枯習ナ
レバ也以祈誓効驗行徳ノ淺深ヲ可知事眼前ニ
シテ東寺天台兩門ノ貴僧高僧惠亮真濟歸依ノ
男女各手ヲ把テ談心ヲ虚ニシテ望ム法ニ偏
執ハナケレ氏互ニ勝負ノ荷擔人タリ能雄名虎
寄合テ手合スルヲ見ルニ名虎元來太力ナレハ

腕ノ力筋大力瘤突出ノ連レリ股ノ村肉籠タリ
肢ノ質付骨ノ連様有ノ渡廣足ノ跋扈亦見ニモ
勝色見セタル形勢ナルニ能雄ガ腕クビ取テ引
寄高ク指上テ曳ト聲ヲ出ノ抛タリケルニ上下
見物之男女アハヤニ宮ノ御方お負手ニ入ヌト
思程ニ一丈餘上ヘ被抛テ乍危ツクトシテコソ
立タリケレ見人戲呼々々ト感嘆セリ又寄合互
ニ曳々聲ヲ出ノ時移ル迄撲闘タリ名虎ハ松ノ
立ルガ如シテ跋扈テ動ザリケルヲ能雄ハ藤ノ
纏ガ如クシテ身ニ絡付ツ、小頸小脇ヲ搔抓テ

内搦外搦大渡懸弓手ニ廻妻手ニ廻逆手ニ入
鴨ノ入首木葉返シニ請身ヲ要トシ表ノ手ニカ
ケ裏ニテ止メ様々ニコソ揉タリケレ見人興ニ
入リタリケル勝負ハ未知サレハ一宮ノ御方ヨ
リハ東寺ヘ使者數波ニ被立ケリ忠仁公ノ方ヨ
リハ二宮ノ御方ステニ危ク侍ルト使ヲ山門ヘ
立ラル、事櫛ノ齒ヲ引ガ如シ和尚コハ心苦キ
夏哉此時不覺ヲ我山ニ殘サン事口惜シニ官ノ
即位給ハズハ命生テモ何カハセントテ熾盛ノ
念カヲ抽デツ、爐壇ニ立タル劔ヲ拔健ニ把テ

自頭ヲ突破テ腦血ヲ沃キテ芥子ニ交香ノ煙ニ
燃具シテ敎命頂礼大聖大威德明王願クハ能雄
ニカラ付給ヒ勝事ヲ即時ニ令得給ヘト黒煙ヲ
立テ汗ヲ流ノ揉ニモミテゾ祈リ給フ生佛本ヨ
リ隔ナシ信カ本尊ニ通シ本尊行者ニ加ヒケレ
バ太威德ノ乘給ヘル水牛爐壇ヲ廻ル夏三度聲
ヲ揚テゾ吹タリケル其聲大内ニ響ケレバ能雄
ニカゾ付ニケル名虎ヲ脇ニ引挾南庭ヲ三廻リ
シテ其後曳ト云フテナゲタレバ名虎大地ニ被
キ付テ血ヲ吐テ不起上蔵人等走寄大内ヨリ昇

出シテ家ニ返シ遣タリケレハ三日過テ死ニケ
リ惠亮腦ヲ摧シカハ能雄ニカハ付ニケリ名虎
相撲ニ負シカバ維仁位ニ即給フ清和帝ト奉申
ハ此維仁親王ノ御事也

滿仲誕生事

上総助經基ハ弓馬ニ達シ武勇ノ器量ノ仁ナル
ニ依テ任正四位上初メテ武家ニ落テ相模國鎌
倉ニ住ス家富又レハ内足テ外ニ待コトナシ唯
仰佛神仁義ヲ宗トス比ハ醍醐天皇延喜十一年
ノ笈内室相勞シキコトアリ一夕夢ミラク不動

ノ利劔ヲ賜ツテ懷中スト見ル是ヨリ誠ニ胎内
 ニモノアリ是ヲ夫公ニ語ラル經基ノ云クモ
 其懷妊セバ是明王ノ垂迹ニテ男子ノ心不動自
 性天然無動者ナラン我家ノ繁栄ナルベキ悦ビ
 何莫カコレニシカンヤト淨心身善事ヲ聞シノ
 琴瑟ヲ聞シメ十三箇月ヲ經テ明ル十二年四月
 十日ノ明方誕生ス此時彩虹屋上ニ横タハリ白
 雲覆殿頭ト見エシニ雲ニテハナクシテ白旗ナ
 レハ外人是ヲ見テ奇異ノ思ヒナシケル其小名
 稱明王丸母ハ藤原敦有公ノ息女也

延長四年明王九十五歳元服シテ号充馬助滿仲
 六年滿仲十七歳達弓馬

朱雀院御即位延長八年十一月也

源姓賜事

兼平四年平ノ將門關東ニテ謀叛ヲ發シ東八箇
 國ヲ討靡ケ自平親王ト稱ス經基鎌倉ニ御座ケ
 ルガ急キ都ヘ上リ奏聞シ追討使ヲ勅許シ給ハ
 レカシト望ミシカバ其早ク依令住進獻感マシ
 テ任鎮守府將軍始テ源ノ姓ヲ玉フ
 源經基授位事

同五年春正月源經基二位ヲサツケ給フ經基ハ
貞純親王ノ御子貞純ハ清和第六ノ皇子ナルユ
ヘ經基ヲシテ号六孫王王ハル是ヨリ威名大ニ
天下ニ振フ

源滿仲自惟時傳軍書事

抑此軍書ハ醍醐天皇ノ御時延喜五年乙丑三月
十一日ニ命左大弁宰相大江惟時テ宜キ儒書聖
經賢傳兵書ヲ傳ヘ來ルベシトテ沙金十萬兩ヲ
持セテ異朝ニツカハシ給フ惟時先金五萬兩ヲ
唐朝ノ天子昭宣帝ニ奉リ兵符ヲモトム依勅命

サマぐノ儒書兵書コトクク相傳フトイヘドモ
言語侏儻ニシテ不通バ此書通曉シ讀明スコト
不能依之延喜五年ヨリ兼平四年マテ三十年間
留学シテ先五經三史文選ニ通シテ依經書三史
之成功軍書武經ノ明法ヲ著ス五代ニ入テ吳越
ノ王元罐并ニ閩ノ惠宗延ニ謁見シテ九經ヲ求
得テ朱雀院ノ兼平四年甲午ノ年敝朝ス帝有御
威此ノ事ヲ武士ニ傳ヘテ我朝ノ寶トナサント
武夫ノ器量ヲ撰ヒ給ニ智仁勇備ヘタル武將ナ
シ尤馬助滿仲コソ道天地將法自ラソナヘル文

武ノ將ナリトテ大江惟時ニ勅シテ八幡ノ御室
前ニライテ齋スル事三日ニシテ傳之トイヘト
モ唐本ノ軍書ナレバ不通讀於是未學者タメ和
字ニ訓シ假名ニ述テ傳ヘケレバ一トシテ通達
セズト云、夏十シ名之曰訓閱集註説者其後世治テ鞍馬
ノ毘沙門天王ノ宝殿ニ藏之玉フニ七條朱雀ノ
鬼一法眼ト云モノ宝殿ヨリ申下シ秘之藏石櫃
固驗シテ不出相外然ルニ源義經鞍馬ニ在リシ
時平家ノ一族ヲ亡サシノ志シアリテ此兵書ヲ
鬼一法眼力鞍馬山ヨリ申下シケルコトヲ傳

ヘ聞キ如何ニモシテ鬼一二随侍シテ此軍書ヲ
得マク欲シテ謀コトヲ廻ラシ鬼一法眼ガ聳ト
ナリ鬼一ガ他ニ行テ關鬼一亡其女ト心ヲ合セ
テ求メ出シテ用之終ニ親ノ敵平家ノ一族ヲ亡
シ玉フ其後楠正成用之官軍ニ利アリテ軍功莫
太ナリ日向國伊東在京ノ時楠正成ニ親近セシ
時傳之正成ニカレヨリ來カタ山本氏某西國ニ牢人セシ
時傳之伊東ヨリ關東ニ下リ武田氏家ニ傳ヘテ大ニ
軍功ヲ振フ是ヲ小幡上總守家臣岡本喜菴傳之
喜菴其嫡子ノ岡本宣就ニ傳ヘテ以箕壁大星術

大ニ勝利ヲ得タリ宣就ス細川家小幡家并ニ
北條家及瀧川信益ニ傳ヘテ信益大成之今ノ七
書等モ此中ニ籠レリ別シテ六韜三畧孫子ナリ
ト傳ヘ聞ケリ惟時ノ云セニ學デ知ル人多シ
生ナガラニシテ利ニカナヘリ是誠ニ神助ナル
ベシト感ジ給ヒケル

純友征伐之事

天慶二年春三月藤原純友西國ニテ謀叛ス小野
好古ト同ク純友征伐ノタメ經基滿仲父子共ニ
西國ニ趣ク終ニ追伐シテ軍功アリ

滿仲長男滿正誕生事附賴光誕生事

村上天皇御即位天慶九年四月十三日天皇禪位

於八日即位

天曆四年三月二日滿仲長男滿正生ル

同八年七月廿四日賴光生ル

源滿仲鴈射雲上之翔鳥事

天徳元年秋八月天皇嵯峨野ニ御幸ナリシ時依
勅命滿仲射雲上翔鳥渡鴈落シ帝ノ預獻感ケル
天下弓箭ノ達人ナリト譽サルハナカリケル

滿仲討捕鬼神事

康和三年ノ秋信濃國戸藏山ニ鬼神住テ牛馬六
畜ヲ飼裂由人民歎キ愁ヘケレバ公卿有僉議
馬助源滿仲ヲ撰ミ出ス滿仲勅命ヲ奉ハリテ信
州ニ發向シ下テ戸藏山ニ至テ夏ユヘナク鬼神
ヲ討平ケ八月十四日ニ敗京シテ鬼ノ首ヲ庭上
ニ持參ス頗ハ如朱差眼ノ光如日月口廣似鉄盆
齒ノ尖ナルコト如劔髮逆ニ生テ如棘手足ノ毛
ハ銀ノ針ヲ乱シタル如ク也帝觀覽アツテ斯ル
奇恠ナル癖者ヲ事ユヘナク退治仕ル夏例シ少
ナキ武功ナレバトテ正四位下ニ叙シテ信州ヲ

賜ル

滿仲賜城地事

帝南殿ニ燕居シ玉フ時滿仲ヲ召シ汝常ニ克朕
力心ニ慤ヒ委身事マツルユヘ何夏モ震襟ヲ安
クス然ルニ汝ガ父經基ヨリ汝ニ至テ鎌倉ニ居
住ストイヘドモ都遠キノ間近國ニシテ心ニ叶
ヒタル所ニ居所ヲカマヘ常ニ大内ヲ可守護ト
ノ忝宣命身ニ餘リテ不堪喜去ハ君之所貴仁也
臣之所貴忠也ト云シモ此コトナルヲ如何サ
マニモ此源氏榮フベキ時至リケル兆シニヤト

舉世テ云ケル果ノ撰津國ニ封^{ホウ}侯^{コウ}ニ給^{タテマツ}ケリ多
田ノ庄新田ニ城ヲ築キタマウ目出度カリケル

源家十リ

冷泉院御即位康保四年十一月

滿仲住吉參籠并明神示現事

五年ノ春滿仲聊宿願ノ事アリトテ撰津國住吉

へ參詣アル御伴ニハ藤原仲光田井次郎左衛門

尉正泥小太郎景吉清原元俊ト部兼氏大江太郎

光正等上下千餘人計リナリ其行列道壯嚴重ナ

リ二月上旬ノ比ナレバ餘寒最烈クシテ衣ヲト

ラス風ノ音層ニ破^イシテヒヤ、カナリ去レトモ

春ノ驗ニハ峯ノ白雪ムラ消テ谷ノ氷モ解ヌレ

ハ白波ニサル桂河春ノモノトテ鶯ノ霞ヲ分テ

出初テ喬木ニ移リ緇^{サエ}聲ハ御心モウキ立計ウ

ラ、カニ面ヲ吹テ不寒楊柳ノ風心長閑カニ吟

ヨヒツ、淀ノ大渡ヨリ御船ニメサレ撰津國難

波ノ浦ニテ楫人艣ヲ止メケレバ住吉ノ里ニ着

給ヒ先明神ノ御前ニ再拜シ抽丹誠懇念シ如在

ノ礼ヲ盡シ玉ヒサテ又紉紙金泥ノ妙法蓮花經

一部金造ノ太刀一振上箭二筋神馬三疋其外數

ノ宝物奉進アル此敗施法施ノ功ヲモツテ大明
神誠ノ志シノ深ヲ有御納受ト祝神主等ニ至ル
テ皆頼母敷思ヒケル其後御室前ニシテ御神
樂ヲ奏シ或ハ色々ノ奉幣ノ声アラタナリ此明
神ノ本地ノ悲願垂跡ヲ尋ルニ高貴徳主ノ変身
トシテ名ヲ佛教ニ顯シ今ハ叡哲聖主ノ周衛ト
シテ化ヲ神州ニ被ラシメ給トカヤ去レバ延喜
帝ノ御宇ニ久敷御造営ナカリケレバ薨破霧不
断ノ香ヲ焼扉落テ八月常住ノ燈ビヲカ、グ如
ク零落シ玉楼モ傾側シ粉墻モ空シケレバ宮奴

是ヲ歎キシニ有時帝ニ示現シテ

夜ヤ寒キ衣ヤウスキカタソキノ行合ノ間ヨ

以霜ヤ置ラン

ト聞ヘサセ給ニヨリ帝驚キ思召テ忽御造立ア

リシ社トカヤ斯ル貴御神ナレバ一七日拜殿ニ

籠ラセ給ヒ丹誠無二ノ御祈感應ナドカナカラ

ント神慮モ暗ニ被計タリ更行月ニ御心ヲスマ

シ法花經讀誦ナサレケリ夜モ深更ニヲヨヒ波

納リ松風シヅカナリシ折節御神殿ノ扉キリク

トナル音ノシケルカ位官タバシキ老人ノ妙ナ

ル御聲ヲ出し示現シテ曰王法ヲ守護ノタメ住
所ヲモトム志ノ深ケレバ此矢ヲ授与スルナリ
虚空ニ向テ射給ハバ必住所ニ落ベシ其地ヲ尋
テ居住スベキナリ佛法王法ニ便リアル地ナ
ベシト又内ニ入給フサテハ神勅ナリト御覽ア
レハ白羽ノ矢一手弓取ソヘアリ奇異ノ思ヒヲ
ナシ有難御事ト感涙袖ヲウルヲセリ所願ステ
ニ叶ヘリト御悦カギリナシ臘夜ノ曉カケテ入
月モ社檀ノ砌ニ耀キテ一入尊ク頼母シクゾ覺
ヘケル

松陰ノ波ニ浮メル月マテモ深ヤ頼ム佳吉ノ

神詠シ弓ト矢ヲ取モチ猶擁護ノ威ヲ加ヘ給ヘ
ト心ヲ静メ射給ヘバ此矢雲井ニ飛アガリ鳴リ
廻ルコト鳴雷ニ不異北ヲサシテ行ト見ヘシカ
五月山ヨリ成亥ナル少シコブカキ谷陰ニ光ヲ
ハナツテ落ニケリ去トモ余人ハ是ヲ知事ナシ
タ、蒲仲ヒトリ見ヘケルハ不思議ト云モ口
カナリ
多田初并住吉神鎬中大蛇不思議事

滿仲朝臣ハ明神ノ御前ニ向テ歡喜ノ掌ヲ合セ
奉拜謁盡如在之礼悦ビノ奉幣事ヲハリ能折カ
ラナレバトテカナタコナタヲ見給フニ前ハ巨
海漫々トシテ雲煙浮天波瀾吞九域清江滌山青
於藍若水渺々トシテ幽ナリ住ノ江ノ釣殿ニ詣
テハ彼住吉ノ姫君此所ニ御座テツククト嘯テ
誰松風ノ夕ヘズ吹ラント琴搔鳴シ給ヒシアリ
サハ岸ニ生テフ忘レ草忘レモヤラスト云シ
アト、カヤ淺澤津守七度ノ濱此所ニテ在原中
將業平鴈鳴テ菊ノ花サク秋ハアレト春ノ海邊

ニ住吉ノハマト讀シモ此処ノ夏ナラン今日
モ春ノコトナレハ實モト思ヒ合サレケリ斯テ
モ時刻ヲ移スベキ夏ナラ子ハ宮奴ドモニ暇マ
コニ御馬ニメサレツ、彼箭ヲ尋出給ヒ天王寺
ニ参リテハ且念誦シ又駒ニ打ノツテ北ヲサシ
テ御出アル遠山ニカ、ル白雲ハ花カト見ヘテ
面白ヤ渚ハ芦屋難波写其名バカリハ朽モセ又
長柄ノ橋ノイニシヘシ思ヒ渡ラセ給ヒケリ未
ダ秋ニハアラ子ドモ露ノ玉河玉江里猪名ノ篠
原分スギテ立木モ知ラヌ山路ノ藤ヲ引足シマ

トツテ岩根^{イハネ}シ^チノギ漸^{ヨサ}ク峯^{ミヤ}ニ至^イリ給^{タマフ}フ其景^{ノケイ}ホ
トンド言語^{ゴゴ}ノ不^{アラ}有^{ナシ}及^ヨ所^{トコロ}暫^{シラ}ク四^ヨ方^モヲ見^ミ給^{タマフ}フニト
アル松^{マツ}下^カニ怪^{アヤ}シキ菴^{イモ}リノ見^ミヘケレバ不思議ノ
思^{オモヒ}ヒヲナシ立^タヨリ是^{コノ}ヲ見^ミ給^{タマフ}フニ千^チ草^{クサ}ヲ結^{ムス}ビテ
ヤ子^コトシ萩^{ハギ}ノ編^{アミ}戸^ドシテ晝^{ヒル}タニモ門^{カド}ヲ掩^フヒ竹籬^{チクシ}
ヲ引^{ヒキ}閉^{トヂ}テ悄然^{セウゼン}トシテ足音^{ソツオン}ノ楚^{キヤ}然^{ゼン}タル剥^タ啄^{タク}ノ扣^ク
クモナシ滿仲^{マンチュウ}軒^{ケン}近^{チカ}ク立^チ寄^{ヨリ}人^リヤアルト御尋^{ミゾリ}アリ
ケレバ良^ヤアツテ誰^タト答^{コタ}ル者^{モノ}ヲ見^ミレバ八十^{ハチ}有^{アル}餘^{ヨリ}
ノ老僧^{ラウソウ}ノ眉^{メイ}ニ八字^{ハチジ}ノ霜^{シロモ}ヲタレ鬢^{ビシ}髮^{ハツ}ハ千^セ莖^{キヤウ}ノ雪^{ユキ}
ヲ墨^{スミ}ムガゴトシ滿仲^{マンチュウ}問^トテ云^{イハ}ク汝^ニ爰^{コノ}ニ住^{スミ}テ幾^{イッパツ}

ノ年^{サシ}ヲ經^{カサ}ヤ答^{カタ}テ云^{イハ}ク我^レ此^{ココ}處^{トコロ}ニシテ數^{スウ}十^{ジュ}歲^{サイ}ノ星^{セイ}
霜^{シロ}ヲ重^{カサ}ヌサテ旁^{カタ}ハ何^{ナニ}ユヘ是^{ココ}ニテハ來^キリケルゾ
ヤ我^レ是^レヘ來^キル更^{マシ}別^{ベツ}義^ギナシ此^{ココ}邊^ヘヘ空^{カラ}ヨリ矢^ヤハ落^フ
ズヤ老翁^{ラウウ}語^{コト}テ云^{イハ}クコレヨリ麓^{フス}ノ谷^カ陰^{カゲ}ハアレニ見^ミ
ヘタル山^{ヤマ}ニ包^ツマレ河水^{カスイ}奥^ウヘタヘテ千^チ尋^{シン}ノ池^チ
アリ此^{ココ}ノ池^チニ九^ク頭^ツアル大蛇^{ダイジャ}スニテ水^{ミヅ}邊^ヘ近^{チカ}ク寄^{ヨリ}
者^{モノ}ヲ取^{トル}テ吞^ム食^ク數^{スウ}ヲ不^ス知^ラ尔^ニ所^{トコロ}ニ去^{サニ}ヌル曉^{アカサキ}空^{カラ}ヨリ
光^{ヒカリ}物^{モノ}飛^{トビ}來^キテアレニ見^ミヘタル山^{ヤマ}陰^{カゲ}ニ震^{シメ}動^{ドウ}シテ落^フ
シカ件^{ケン}ノ蛇^{ジャ}水^{ミヅ}ニ浮^{ウカ}ミ波^{ナミ}ヲサカマキ火^ヒ炎^{エン}ヲ吹^{フキ}立^{タテ}
喚^{ワケ}叫^{セウ}ブ聲^{コエ}山^{ヤマ}モ崩^{クズ}ルカト覺^{シホ}ヘ侍^シリシガアレナル

山ヲツキ切水ハ流サツテ加様ニ平地ト成コト
不思議也此、外ニサシテ何莫モ知リ侍ラズト申
ケル是ヨリ此所シ矢問村ト名付ルトカヤ其後
滿仲ハ麓ニ下リ御覽アレハ其言ノコトク大キ
ナル毒蛇ノ九頭アツテ弓ニテクラブレハ伏タ
ル長七十二弓ニ及ベリ十八ノ角十八ノ眼ノ光
リハ如日月喉ノ下ナル鱗ハ團ノコトシ其ノ色
ハ鮑貝ノ光リニ不異彼、角ト角トノ間ニ中ル
半ハ心膽ヲツラスク血ノ流シシ跡紅波万水ヲ
漆ナシ蜀江ニ錦ヲ洗フニ似タリ見ル者肝ヲ消

シ魂ニシ失ヘリ則首ヲ切九頭明神ト祝ヒ祭リ
給フ水引シ跡多クノ田ノ如クナレバ多田ト名
付給フ其後地ヲ引墾シ居トシ家ヲ經營シ城ヲ
築キ矢倉ヲ造リテ新田城ト名付爰ニ在住シタ
マヘリ山水竹木兼備ヘタル所ナルユヘ明神モ
此地ヲ示シ給フトカヤ
西宮^{ミヤ}元^{ミヤ}大臣^{ミヤ}高明公^{ミヤ}流罪事^{ミヤ}
元大臣^{ミヤ}殿^{ミヤ}流罪^{ミヤ}ノユヘシ原ルニ冷泉院ト申奉ル
ハ村上天皇第二ノ王子御諱ハ憲平御母ハ中宮
安子ト奉申元大臣師輔ノ御娘也天曆四年五月

二御誕生マシク七月ニ太子ニ立給フ然ドモ邪
氣ノ御崇アリテ御心地常ナラザルニ村上天皇
崩シ給フ太子御年十八ニシテ御即位マシクケ
リ同年ノ十二月藤原實賴ヲ太政大臣ニ任シ玉
ニ源高明ヲ左大臣ニ任轉シ藤原師尹ヲ右大臣
トス爰ニ又深殿式部卿ノ官為平公ト奉申御座
マシケリ此御弟ヲ号守平公為平公ハ村上天皇
ノ御愛子ニテ高明ノ婿ナリ天皇御即位以後モ
御病愈ザルニヨリ為平公御太子ニ立給フベキ
ト人皆思ヒケルニ實賴ト高明ト不和ニ成給フ

故ニヤ村上御遺勅ナリトテ實賴ハカライニテ
守平公ヲ立テ東宮トス然レモ天皇御惱シバク
サカンニ御座アレバナガラヘテ天下ヲ知召ニ
モ如何ト思召ケルニ仍テ朝政多ハ實賴高明師
尹ナンド、シテ執行玉フ然ニ安和元年三月廿
五日春モ漸ク暮梢ニ残ル鶯ノ声トリクナルニ
鳳闕ノ西右近ノ馬場高明卿ノ亭宅ヘ藤原千晴
中務少輔源繁延武藏今藤原善時僧ノ蓮茂等ヲ
招キテ巡盃ノ興ヲ催サル酒宴半スギ座モ右次
ナル折シモ高明卿被仰シハ旁會合スル更サラ

ニ散花ヲオシムニアラス偏ニ頼ミ申度夏ノ候
フ也叶ヘ給ヒテニヤト最カルクシク宜フ人々
兼リサテモ夏新シキ仰ヤ候フタトヘ如何様ノ
御大事ニテモアレ身ニ叶ヒ侍ラン程ノ御事ハ
ト口ヲソロヘ申シケリ高明ウチエミテ内々頼
母敷人々ナリト存シ侍リシコト少モ不相遠喜
入処ナリ迎ノ夏ニ此上ニモ一身同心ノ旨子細
アラジト一紙ノ誓言ヲトメ置シ侍ランヤトテ
料紙硯リヲ取出シ給ヘバ其コソ最易キ夏ニ候
フトテ酔ノマギレニ伊勢石清水賀茂春日近ク

ハ天満天神殘ル処ナク書入頼テ誓紙ヲサシ出
ス愚ナリトモ云フ計ナシ且ク座定テ高明郷小
声ニナツテ云ク別義ニテモナシ皆々存ノゴト
ク為平公御太子ニ立給ベキノ所ニ村上遺勅ナ
リト事ヨセテ守平ヲ春宮トス為平公ハ天皇ノ
御愛子ナレバ天皇モ是ヘトコソ思シメサルベ
キニ實頼カ計イコソ奇怪ナレ為平ノ御心ノ内
御痛シクハ思サズヤ旁ハ名將ノ後胤ナレハ義
兵ヲ起シ我本望ヲ果シ給ハレト涙ト氏ニ宣フ
人々キ、テ思ヒノ外ノ夏ナレ氏今更ニ辞退ス

ベキニアラ子バ是ハ御太夏ノ思シ召立ナリ去
ナガラ斯申シ合セ侍ルウヘハ免ニモ角ニモ早
ク評定然ルベクトアレバ其時繁延申ス様ハ千
晴ハ為平公ヲ御伴シテヒソカニ本國ニ趣キ近
國ノ武士ヲ招キ旗ヲ揚タマヘ善時モ本國ナレ
ハ武州ニ立皈テ日比重恩ノ者、臣ヲ語イ引籠タ
マヘ某モ阿波讃岐ノ方ヘ立越、四國ノ武士ヲ催
シ時日ヲ定メテ都ヘお入ヘシ連茂ハ調伏ノ法
ヲ修スベシ然ラハ佛神ノ威力ニヨツテ本望必
遂ベシ吉日定ルマテハ此所ニテ會合スベキ也

トテ其日ハ退散ニ及ビケリ善時ツクト思ヒ
ケルハ無由謀叛ニ入ラレテ既ニ我家亡ントス
ル処ナリ何が天下ノ君一度勅詔アリシ御夏ヲ
下トシテ討ラニ剩サヘ弓ヲ引矢ヲハナタント
スルコソ勿躰ナシ兎角返リ忠セント思ヘドモ
又誓紙罪ノガレガタシ如何セント思ヒケルガ
老母ノ前ニ出テ申シケルハ我家ステニ可栄時
節ノ至テ候ヘトテ高明殿ノ謀叛ノ次第委ク語
ル母涙ヲハラクト流テワゴゼハ如何思ヒテ組
シタルト云善時申ケルハ無由夏トハ存シカト

モ無是非誓紙ヲ留メ置侍ル上ハ何トテ可_キ辞退_{タス}
道コソ侍_{ハニ}ラ子母大牛ニ立_{リツ}腹_ハシテ云ク汝ヨク聞_キ
誓紙ノ科_{トモ}尤_モモノガレマ_ジ併_ニラ神_{カミ}ハ非_ヒ礼_レヲ請_シケ
不_レ給_ハト云フナレバ是ハ又忝_{カレケ}クモ天子ニ向_カヒ奉_ル
リテ矢_ハヲハナチ弓_ヲ引_レベキトノ誓紙一_ハ天ノ主
ヲ尊_{ソウ}敬_{ケイ}スルハ正_タシ主君ニ弓_ヲ彎_{ヒク}ハ不_レ正_カ正_タシキ者
ノ頭_{カウ}ベニハ神_{ヤマト}寓_リタマフ夏_{ナツ}明_{アカ}ケシ誓_セ約_{ヤク}ヲ背_{ソム}ク
ヲ非_ヒ礼_レト云ハ_ニヤ是_レヲ礼_レト云ベキヤ誓紙ノ科_{トモ}
大_{オホ}ニナリト云ヘ_ニ臣_{ミコ}ナンゾ是_レ正_タニシカンヤ早_{ハヤ}ク
返_{カエ}リ忠_{チウ}セヨ尤_モナクハ我_レ奏_{ソウ}聞_{モン}シテ汝_ニモ共_ニ罪_{ツミ}セ

ントアラ、カニ申サル善_{ヨシ}時_{トキ}今_{イマ}ハム子_コハレ心_{ココロ}定_{ヤス}
テゲレハ畏_{カレミ}リ入_リ候_{コト}フトテ其_{ソノ}夜_ヨヤガテ滿_{マン}仲_{チュウ}ノ宿_{シュク}
所_{トコロ}ニ來_{キタ}テ謀_{マコ}叛_{ハン}ノ次_{ツギ}弟_{テイ}委_クシク語_{コトバ}テ其身_{ソノミ}ハヤガテ
飲_カリニケル滿_{マン}仲_{チュウ}コレヲ聞_クテ事_{コト}ノ躰_{タイ}隱_{イン}便_ビニセハ
ア_レシカリナント思_{オモ}ヒ急_{イサ}ギ参_{サン}内_{ウチ}シテ夏_{ナツ}ノ由_ユ奏_{ソウ}聞_{モン}
ス帝_{ミカド}大_{オホ}キニ驚_{オドロ}カセ給_{タマフ}ヒ高明_{コウメイ}ヲ召_シシケレバ高明_{コウメイ}
此_{ココ}夏_{ナツ}トハ夢_{ユメ}ニモ不_レ知_ラ常_{ツツ}ヨリモ猶_{ナラ}声_{ハナ}華_{ハナ}ニ見_ミヘ参_{サン}
内_{ウチ}アル所_{トコロ}ニ檢_{ケン}非_ヒ違_イ使_シ則_{スな}真_{マコト}出_デ向_カヒ御_{ミコ}隱_{イン}謀_{ボウ}コトア
ラハレ侍_{ハニ}ルニヨリ勅_{チク}下_ゲ如此_{コトク}ナリトテ是_レ非_ヒナク
髪_{カミ}ヲ剥_ハ出家_{イケ}ノ形_{カタチ}トナシ太_{ダイ}宰_{サイ}權_{ケン}帥_{シュ}ニシ尤_モ遷_{セシ}遠_{エン}流_{リウ}

ノ罪ニ定リケル其ヨリシテ師尹ヲ充大臣トス
藤原在平ヲ右大臣トナサル諸檢非違使ヲツカ
ハシ繁延并ニ僧蓮茂ヲトラヘテ拷問スルコソ
痛ハシケレ餘リニツヨク責ケレバサラバ不殘
白狀セント充大臣高明郷ノハカライニテ式部
郷ノ官ヲ取り立テ東國ヘ趣キ軍兵ヲ起シ御即
位サセ奉ラン此夏本意ヲトケバ繁延ハ播磨國
ヲ賜ラン蓮茂ハ一度ニ僧正ニナラントテカハ
ル目ニ逢ナリ藤原千晴モ同類ナリト申ニヨツ
テ源滿季ニ二百餘人ヲ相ソヘ千晴并ニ其子久

賴其外從兵ヲ捕ヘテ禁獄ス千晴僧蓮茂ヲハ猶
モ拷器ニ掛テ謀叛ノ意趣ナシモ徒黨ヲ責問餘
リノ堪ガタサニ蓮茂声ヲ上テ南無皈命頂礼金
剛瑜伽祕密教主胎金兩部諸會聖衆傳灯阿闍梨
耶龍猛龍智助タマヘト大聲上テ唱ヘケレバ一
乘密宗ノカニヤ拷木断々ニシレシカバ死罪一
途ニ定リテケリ諸善時ハ此コト不遂本意ハ身
タメ惡カリナント思ヒソカニ滿仲ニ語リシカ
バ善時神妙ナリトテ賞ヲ給ハルカハリシカバ
大内騷動ハナハダシ京中ノ男女今モヤ世ノ乱

ヲコルヤト子ヲサカサマニ負泣喚ブ車馬ノ馳
違音天地ニ夷キ洛中洛外騷キアヘリ

高明殿住宅焼拂事

同四月廿三日檢非違使源滿季藤原保昌等ニ仰
テ高明郷ノ住タマヒニ西ノ宮ノ家ヲ焼拂フ昔
秦始皇項羽ガタメニ亡サレテ咸陽宮ニ火ヲ放
チシカバ三十六宮三月ガ中烟火片々タリトカ
ヤ高明郷サシモ目出度住ナシ給ヘル屋形下片
ノ烟リト登リ焦土トナルコソ哀シケレ

滿仲任將軍事

文武ノ兩道ヲ以テ世ヲ治ルノ中急ナル時ハ武
ヲ以テ治此タビノ事若ユルカセナラハ騷動ノ乱
天慶ノ如クニモ有ベキニ早速ニシヅマリテ朝
廷無怠ナルハ滿仲ノ功勞ナリトテ正四位下左
馬助源朝臣滿仲ヲ叙鎮守府將軍任左馬頭コレ
ヨリシテ威名大ニ形レケレハ源平藤橘其外諸
家ノ軍將等日々月々ニ門前ニ市ヲナス

滿仲内昇殿事

今年八月十三日改元アツテ安和元年ト云滿仲
被許内昇殿トノ有沙汰爰ニ清原秋忠トテ僅カ

ナル公家アリ高明殿流罪ノ^{イカ}責ツテ如何ニモ
シテ滿仲ヲナキ者ニスルナラバ高明召シカヘ
サレニ^{ウツカ}疑ヒナシ誠ヤ滿仲昇殿ヲユルサレ出
仕スルト聞ナレバ其夜闇討ニセント事ニフレ
テ^{子ム}妬之雲客三四輩モ語イ密々用意ヲ^{カミ}構ヘケル
秋忠獨リ滿仲ヲ恨ル^{ウツム}多シ秋忠ノ母若カリシ
時去人ノ通ハレシニ其人世ヲ早クサリ給ヘバ
寡ニテ居リ高明殿モ内々云イヨリ秋忠ヲ生リ
然レトモ世ノ嘲リヲ^{ハカ}憚リ前ノ父ノ氏ナレバ清
原秋忠ト名乗セタマヒ十二三歳ノ比ヨリ村上

天皇ニ仕ヘ奉リ今冷泉院マテ宮仕ヘシケル也
去ニヨツテ斯ル思ヒ立モアリケリ十一月十五
日^{トヨノアカリ}豐明ノ節會ノ夜^{セチエ}殿上ニテ^{デシ}打果サント云ヒケ
ル由^{ヨシ}滿仲ホノカニ聞テ我今武家ノ棟梁ト云ル
ル身ヲ持テナマ公家バラニ會計ラレヤミクト
討レナバ下身ノ耻^{ハヂ}ノミニアラズ源家万世ノ名
ヲ下サンモ心憂身ヲ全フシテ君ニ仕ルコソ
忠臣トイハメ所詮謀ヲ^{セシ}以此^{セシ}難ヲ遁レバヤト
藤原仲光ニ仰テ其用意アリケリ^{ラフ}郎等ニ渡部源
五綱ト云者アリ罷リ出テ此度ノ御伴ニハ某シ

ヲ御ツレ給リ候^ラへ其^ユへハ仲光殿ハ物ノワカ
チヲ能^ヨ知リ給^ハへハ乍^ラ存破^{シヤ}リ侍^ンモ後ノ御^ト尤^トメ
モ難^ナ義ナラ^シ某^シハ未^イニ^ハモタラサレバ大内
ノ例^イヲ少々破^レリテモ苦^クカラズ又ハ若^ワ氣^ゲトモ御
宥^ユシ侍^ニカナレバ是非御伴ニハト云、滿仲キ、
渡部ガ申^ス所^ロ其^ユへアリト許^ユサル既ニ其^ニ夜ニ十
リシカバ滿仲ハ装束ノ下^タニ金^コ作^サノ小太刀ヲ帶^ハ
殿上ノ方へ歩^アミス、ム爰ニ火ノホノクラキ方
ニ三四^ニ人計^リノ人陰^カノ見^ヘケルガ將軍ト見^ルヨ
リ立^チムカワントシケルガ滿仲ノテイ装束ノ下

ニ太刀帶ケルヲアヤシメ咎^ガム是コソ件^{ケン}ノクセ
者ノヨト彼^カ太刀ヲサクリ出^シ柄^ツヲ持^モテ四五寸
計モヌキクツロケ加^カ様ノ時ハカナラス天魔ノ
ワザニテ夏^ナノ難^ナ義モ起^ツルトナレハ左様ノ時ハ
此^コ太刀ニテ一^{ヒト}當^アタメノ用意ナリトテ又^サ鞘^サ
ニ納^メサラヌ躰^{タイ}ニテ通^トリケル火^ヒノ光^ヒリニ耀^カキ
合^アキラメキケレハ彼^カ者ノ等^ラ魂^{タマ}ヒヲ失^ウヒ待^マ請^ウタ
リシ無^ム甲斐^カヲメクトニゲサリケリサレ^レ出^イサ
マニハ討^ウト云^フ所ニ源五^ゴ跡^{アト}ヨリ來^リ又^マ其^カ躰^{タイ}只^シコ
トニアラズ布衣^{フイ}ノ下ニ腹^{ハラ}卷^{マキ}シ黑^{クロ}ヌリノ太刀ヲ

ハキ庭上ニカシコマリ殿上ノ方ヲ斜眼ツメ目
モハナタズ守リ居タリニ頼ツキノ威シサハ肝
魂ヒモ失ル計リナリ主君ノ夏ニ逢ナラハ何方
一テモ切入ント思フ氣色見エシカバ今夜ノ闇
討ハ止ニケリ御遊終テ退出アル満仲如何思ハ
レケン蔵人成道ヲ招キ此太刀少々子細アリ若
御尋モアラン時ハ必ズ上覽ニソナヘ給ヘトテ
出ニケル次ノ日秋忠方ノ公卿内奏申サレシハ
満仲如何ニ武將ノ役ニ備リタレバトテ腰刀ヲ
抜アラハシ上ヲモ恐レザル條傍若無人ニ御座

候フト口々ニ奏聞アル去レトモサレテ御答メ
モナカリキ其後彼太刀木太刀ナル夏世ニ露見
アレハ忝ナクモ有勅定シハ當座ノ耻ヲ為遁ヨ
コタヘ差タレドモ後日ノ訥ヘシ恐木太刀ヲ帶
條神妙也サシモ目出度節會ノ座ヲ不慙シテ災
イヲ鎮メ身ヲ全フメ朕ニ仕フコレ忠臣ニアラ
ズヤトテ返ツテ預叡感刺サヘ沙金錦綃ナト下
シ給ヒケルソレヨリ勅有テ満仲ニハ兵扶ヲ帶
シ上殿有テ禁中警衛スベシト命セラル

和忠

